

平成5年8月24日

ホテル型家庭の是正を ～家庭・地域・学校への期待～

学校週5日制に関連して豊島区社会教育委員会が建議

豊島区社会教育委員会（岡本包治会長）は豊島区教育委員会（齊藤直委員長）に対し、『家庭・地域・学校への期待～学校週5日制に関連して～』とする建議を行った。

今回の建議は、昨年9月に学校週5日制が実施されて以来、子どもの学校外での活動について、新たに生じた自由な時間をどう過ごすかは子どもたち自身とその保護者である親たちの意志に任されるべきであるとした上で、学校週5日制を家庭の問題としてのみ捉えるのではなく、子どもと保護者がその時間を有意義に活用できる条件や環境を社会的に整備していくことが必要であるとし、家庭・地域・学校への期待をこめて問題を提起するとともに、広範な提言を行っている。

「家庭への期待」では、学校週5日制が家族の対話など家庭のふれあいを豊かにさせるよい機会であるとし、土日の休みの前日の夜には、子どもたちが中心になって家族パーティーを企画・実施・進行させたり、父親と子どもとの共同作業・スポーツなどを行い、日ごろ顔を合わせることもさえないホテル型家庭を是正していくことを心がけることを期待している。また、学校週5日制を活用して、家族としての行事を多くしたり、地域の行事に参加したり、青少年の成長に不可欠といわれているボランティアの体験を奨励してほしいとしている。

「地域への期待」では青少年育成委員会への期待や地域の情報を学校に提供することなどを、「学校への期待」では、例えば学校施設をより一層整備し、現在実施している学校開放を充実させていくことなどを指摘し、近い将来に完全週5日制の実現が予想されることから、異なる年齢の子どもたちが相互に触れ合うことができ、社会性を育むためにも、学校・地域が連帯して種々の活動がより一層活発化するように期待している。

さらに、「指導者について」は、子どもたちに不足している社会体験や自然体験を指導する人材に関して、地域人材やボランティアの発掘・活用を通じて、次世代の指導者・リーダーが育つことが望ましいとしている。

最後に「学校外活動に役立つ情報提供」として、地域や学校などの各面における情報が広く各場に提供され、子どもたちをはじめとして多くの人々が情報を利用できるように、情報の多様化・相互乗り入れを提唱している。将来的には、学校週5日制に関する情報・資料の収集・提供、相談業務を生涯学習に一事業として位置づけ、関係団体・機関が行う情報提供等と連携・協力、相互調整を図った上で、現在設置が検討されている「生涯学習センター（仮称）」が活用されることが必要であるとの認識を示している。